

三重の病院

つなごう医療

<73>

担って医師の負担を減らしている。

「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

手が震え、口調がおかしい。三月、四口市市茂福の患者荒木恒子さん（65）の家族から電話連絡を受けた、いしが在宅クリニック（四口市市山城町）の石賀丈士院長（56）は「脳梗塞に間違いない。救急車を呼んで」と指示した。運ばれた病院のコンピューター断層撮影（CT）では最初、異常が映らなかったほどの素早い対応。荒木さんに後遺症はほとんど残らなかった。

信頼関係を築くため、大きいと思われがちな在宅医療も、がんなどの痛十人ほどと考えている。医師が患者と十分は話宅医療も、がんなどの痛十人ほどと考えている。せる態勢をつくつていみを抑える医療用麻薬の「病院は病氣と闘う場る。点滴や血圧測定など扱いも、かみ砕いて丁寧所。開業医の役割は病氣は看護師が行い、電子力に説明すれば、患者の漢を予防、発見すること。ルテの入力は医療秘書が然とした不安を取り除けうちは暮らしを支えるの師、ホームヘルパーとの

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

「普通の生活」に力再入院や施設への入居「患者や家族には遠慮に転じた患者は一部もある。痛みや吐き気など。開業から二年間は常どの細かい症状は時間を動医一人で百五十人の最かけないと聞けない」と期を自宅のみとつた。九石賀院長。普段の様子を月から常勤医が一人に増も助言がなければ、パニよく知っていたれば、異変え、対応できる人数が増ツクになっていた」と話

いしが在宅ケアクリニック 四日市市山城町

訪問診療に特化



笑顔で診察する石賀院長＝四口市市茂福で



▽創設 2009年7月▽常勤医2人、非常勤医1人。看護師3人、医療秘書3人とのチーム医療に重点▽内科、疼痛（とうつう）緩和内科▽訪問診療の範囲は、診療所から車で30分、10*以内。一般外来の診療時間は月～金曜の午前8～9時30分▽四日市市山城町770の2▽電059(338)2404

過去の記事は「中日医療サイト」で読めます。

（福岡範行）

自宅療養の患者を訪ねる訪問診療に特化した診療所。痛みを抑えながら病氣と向き合う緩和ケアに力を入れる。食欲改善や寝たきりからの復帰など末期がん患者らが日常生活を取り戻す療養に実績を上げている。

受け持ち患者には、二十四時間二百六十五日の対応。荒木さんを世話する長男の嫁真千代さん